

# 原油相場の解説と最新レポート

2023年12月6日（水）

本セミナーでは、セミナーでご紹介する商品等の勧誘を行うことがあります。弊社の取扱商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、当該商品等の契約締結前交付書面等をよくお読みになり、内容について十分にご理解ください。

商号等：楽天証券株式会社／金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、

一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

## 楽天証券経済研究所 コモディティアナリスト

吉田 哲 (よしだ さとる)

**1977年生まれ**。2000年、新卒で商品先物会社に入社。**2007年より**ネット専業の商品先物会社で**コモディティアナリスト**として情報配信を開始。2014年7月に楽天証券に入社。2015年2月より現職。

“**過去の常識にとらわれない解説**”をモットーとし、日経CNBC、ラジオ日経、ストックボイス、日本経済新聞、日経マネー、週刊エコノミスト、ロイター通信、時事通信など、主要メディアで幅広く、情報発信・コメント提供を行っている。

楽天証券のオウンドメディア「トウシル」に掲載する週次レポートは、多くが**サイト内アクセスランキングで上位入り**する。2020年10月、生涯学習を体現すべく、慶應義塾大学文学部第1類（通信教育課程）に入学。

- **値動きの振り返り（短中期）**
- **原油価格が動くきっかけは？**
- **産油国の動向**
- **原油（WTI・ブレント）とは？**
- **今後の見通し**

# 原油価格が動くきっかけは？

短  
中  
期

(1) 産油国の動向

主要生産国の生産動向・思惑  
(中東とウクライナ情勢を含む)

(2) 需要動向

世界の需要動向・見通し

中  
長  
期

(3) 地球環境に関する政策

各国の「脱炭素」の方針

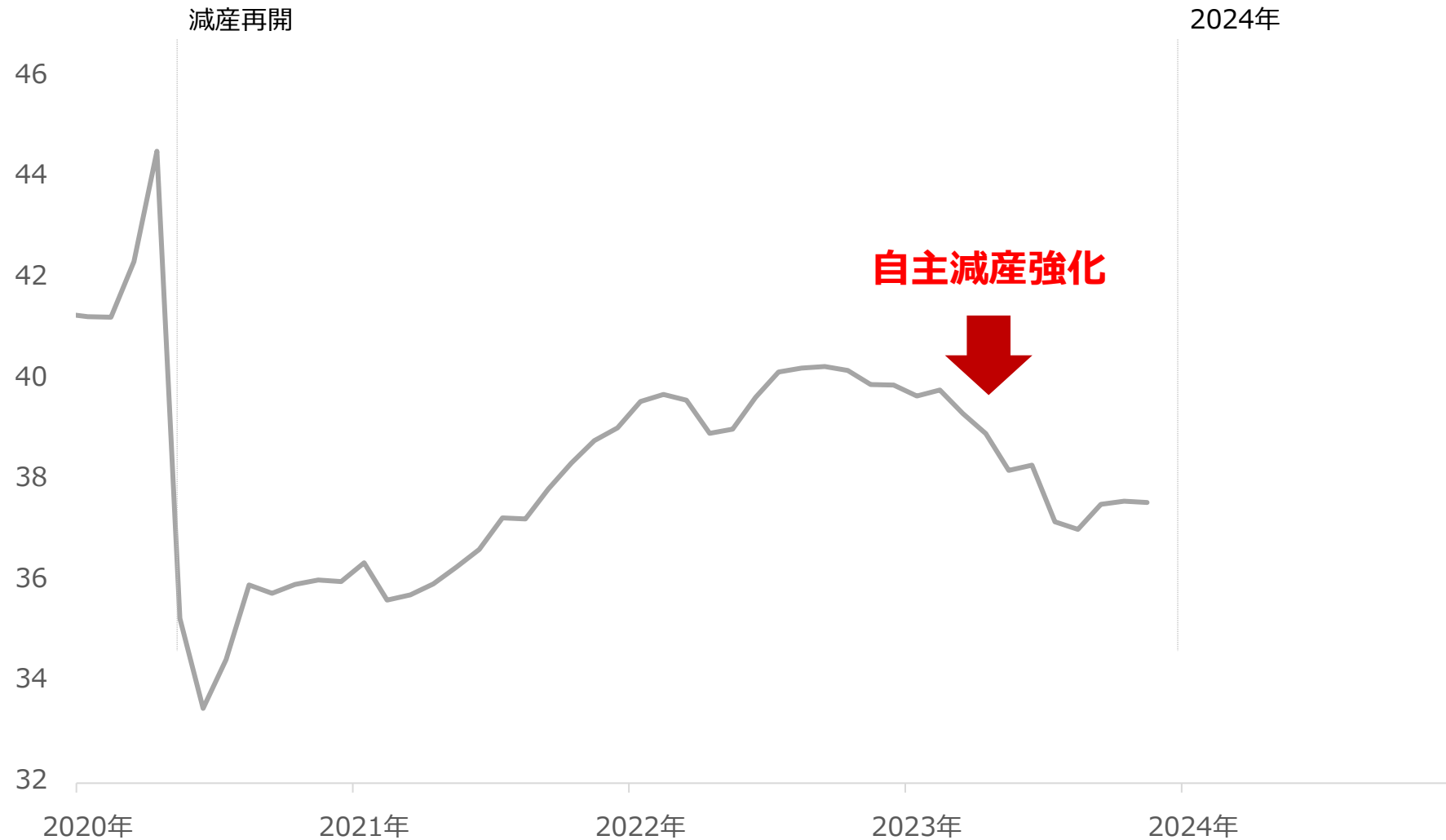
(4) 省エネ技術の動向

自動車や発電所などの技術向上

(5) ドル円の変動

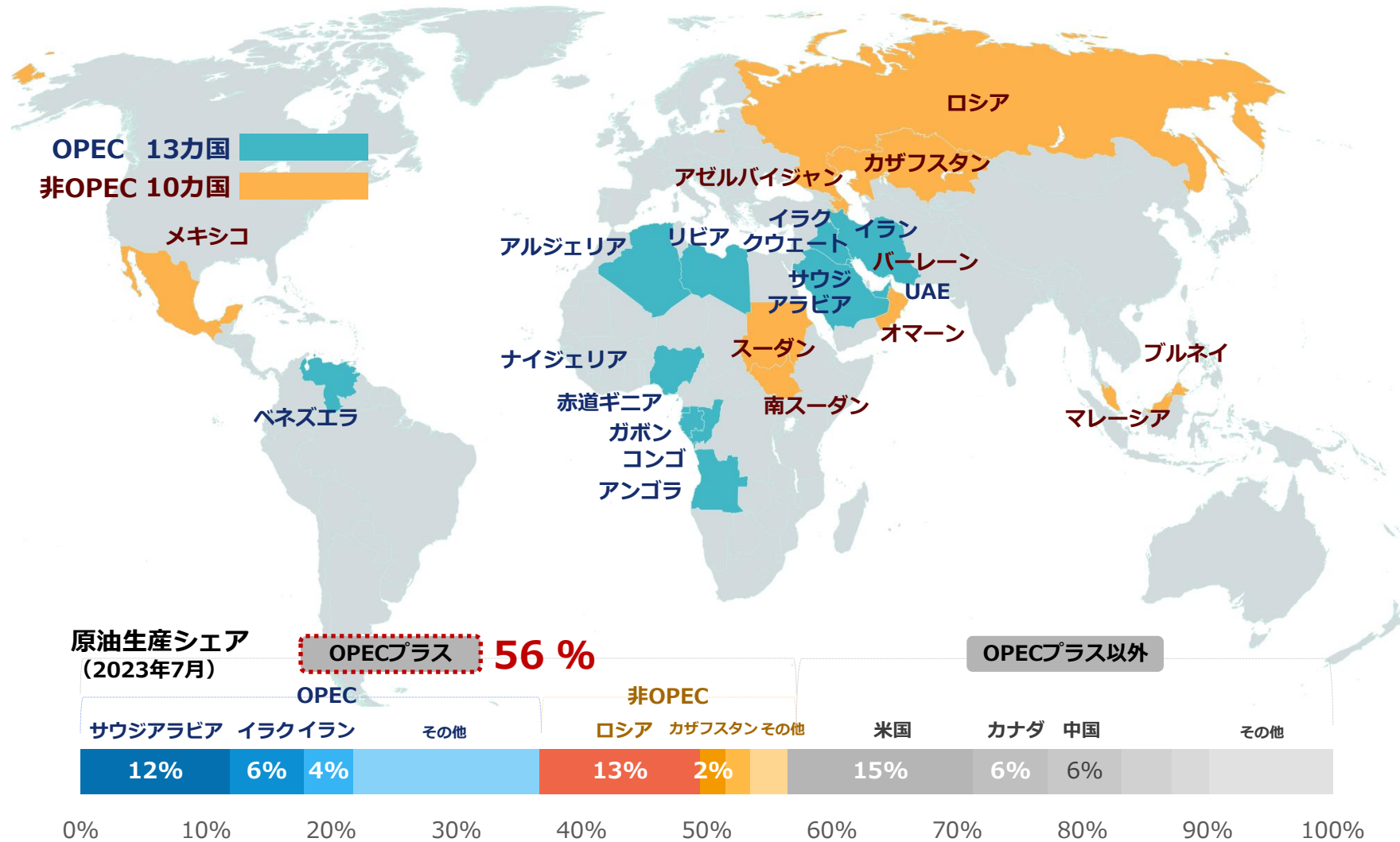
← 円建て原油の場合

## OPECプラス（減産実施国20か国）の原油生産量 単位：百万バレル/日量



# 産油国の動向

## OPECプラス (2023年11月時点)



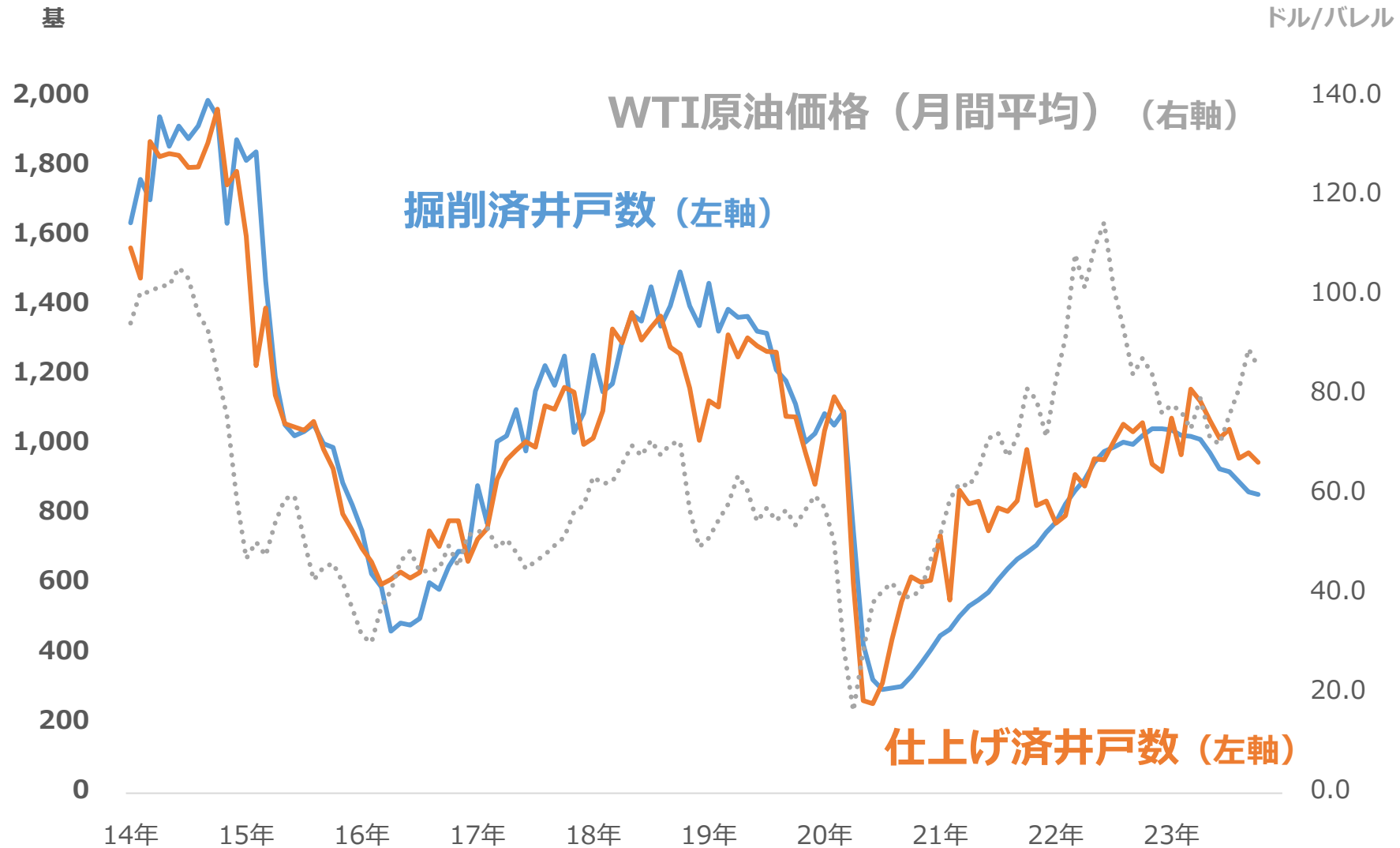
主要産油国の財政均衡に必要な原油価格 単位：ドル/バレル

「OPECプラス」減産実施国

	2022年	2023年 (IMFの予想)
バーレーン	133.6	126.2
カザフスタン	95.5	99.8
サウジアラビア	85.8	80.9
アルジェリア	85.7	112.4
イラク	66.3	75.8
アゼルバイジャン	63.6	77.0
クウェート	63.2	70.7
オマーン	62.1	72.2
UAE	55.1	55.6

左記5カ国平均  
72.9ドル

## 米シェールオイル主要地区の開発状況

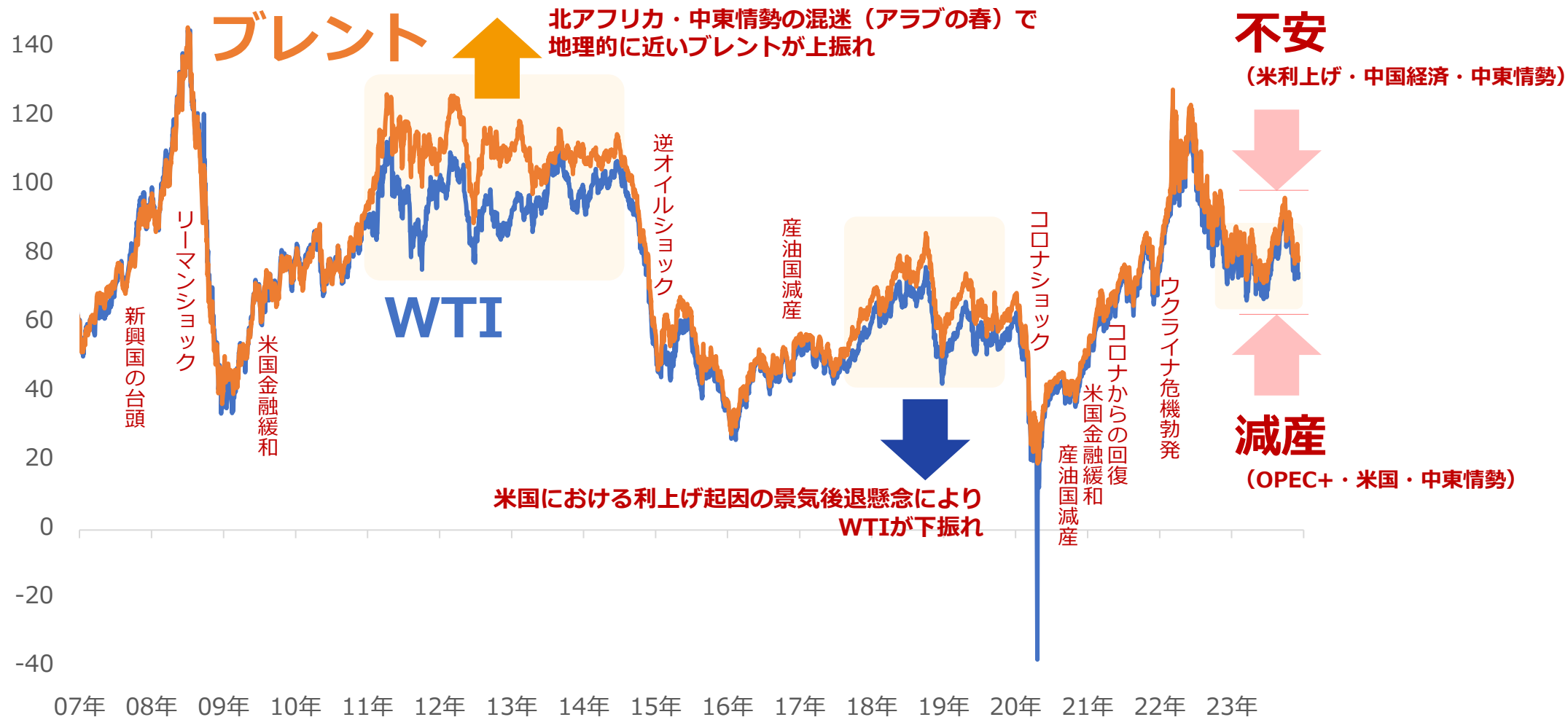




# 原油（WTI・ブレント）とは？

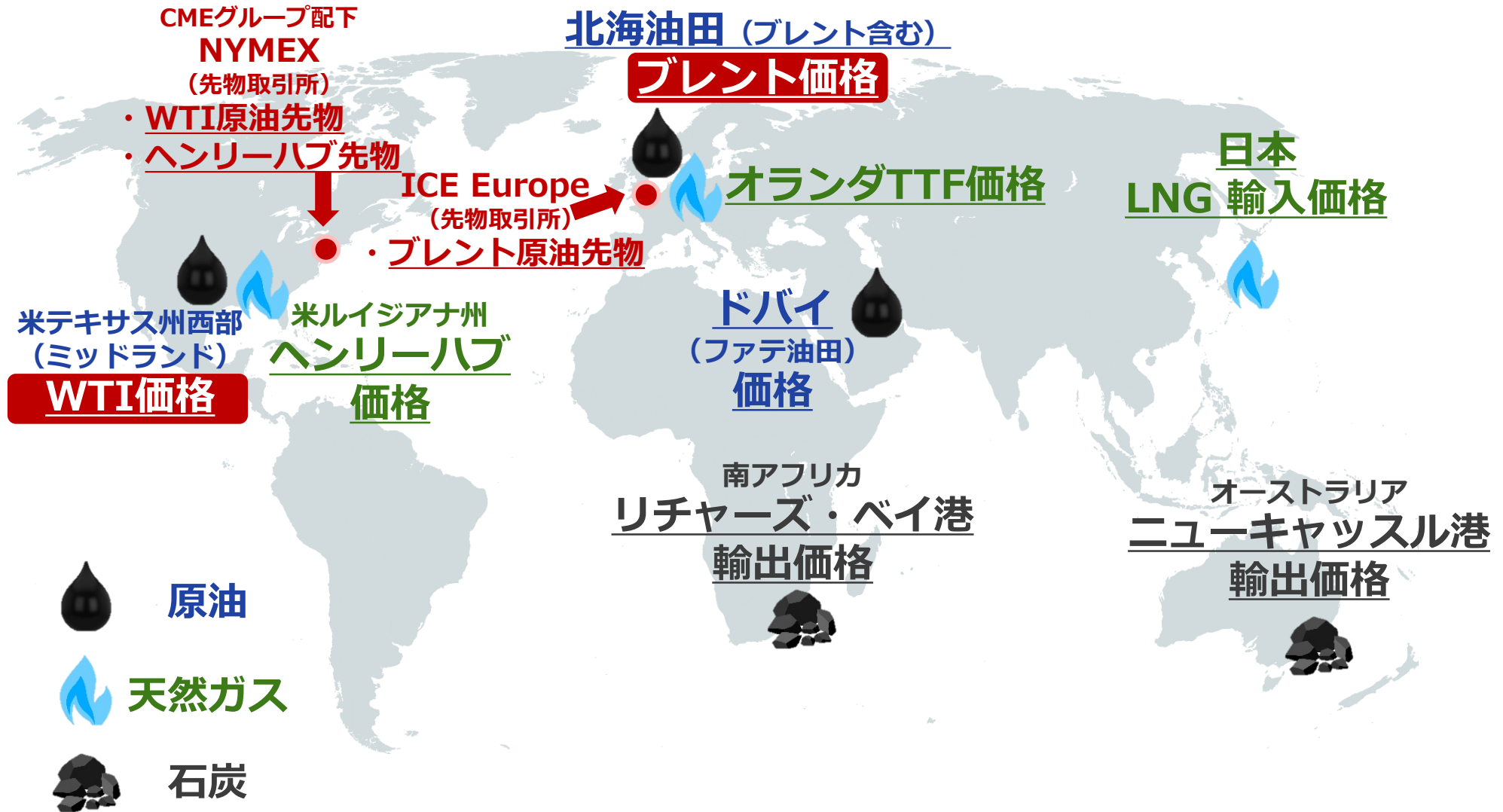
## WTIおよびブレント原油先物（CFDの原資産）の価格推移（期近 日足 終値）

単位：ドル/バレル



# 原油（WTI・ブレント）とは？

## 原油（WTI・ブレント）とは？

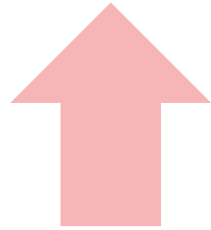
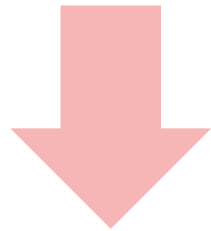


# 今後の見通し（短中期）

## 足元の原油市場の動向

現時点

不安



減産

・ 米国金融政策 — 利上げ打止め期待浮上

・ 中国景気動向 — 景気後退回避期待浮上



OPEC



米国

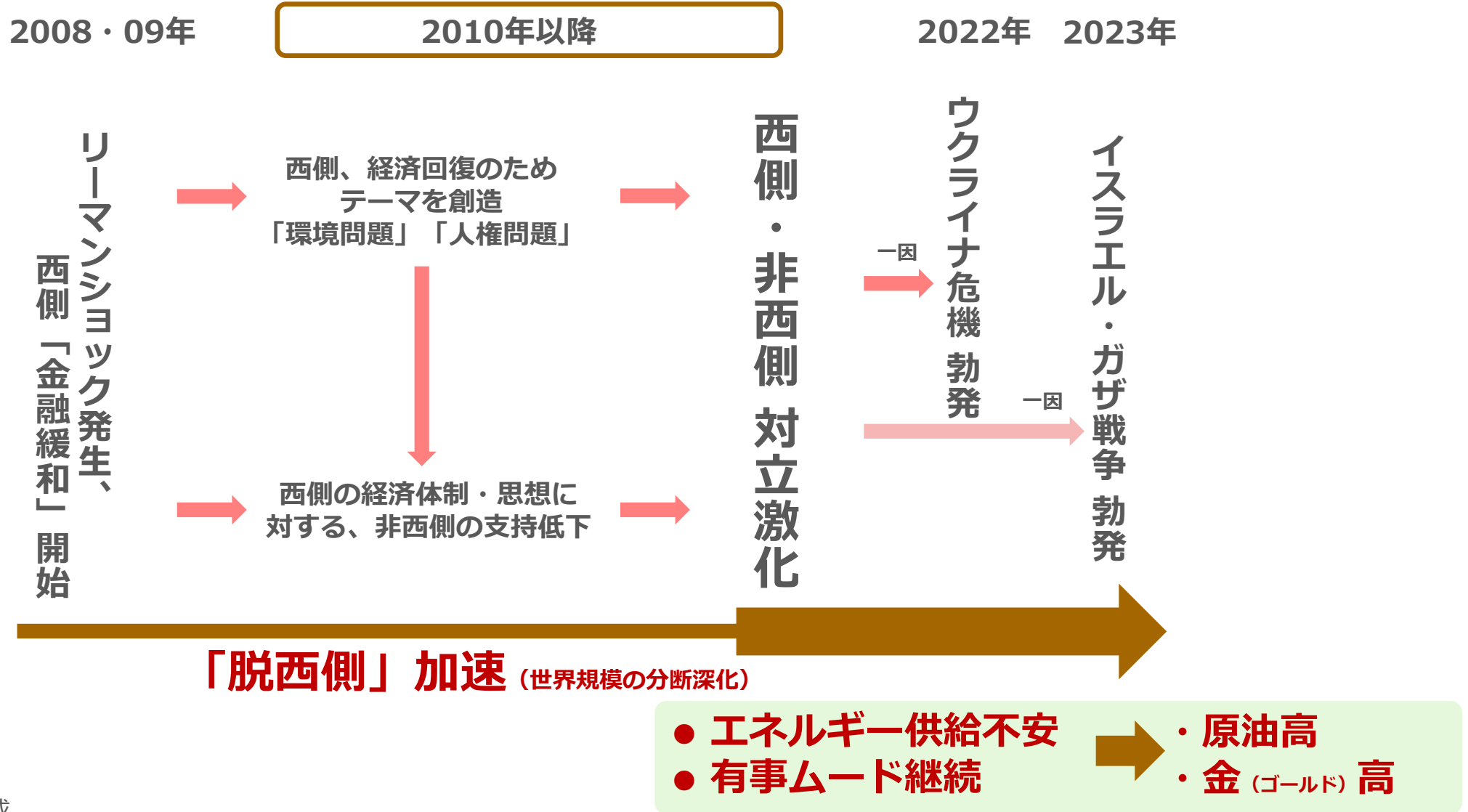
・ OPECプラス減産 — 減産継続・一部強化

・ 米国生産不振 — 脱炭素推進でジレンマ

中東情勢

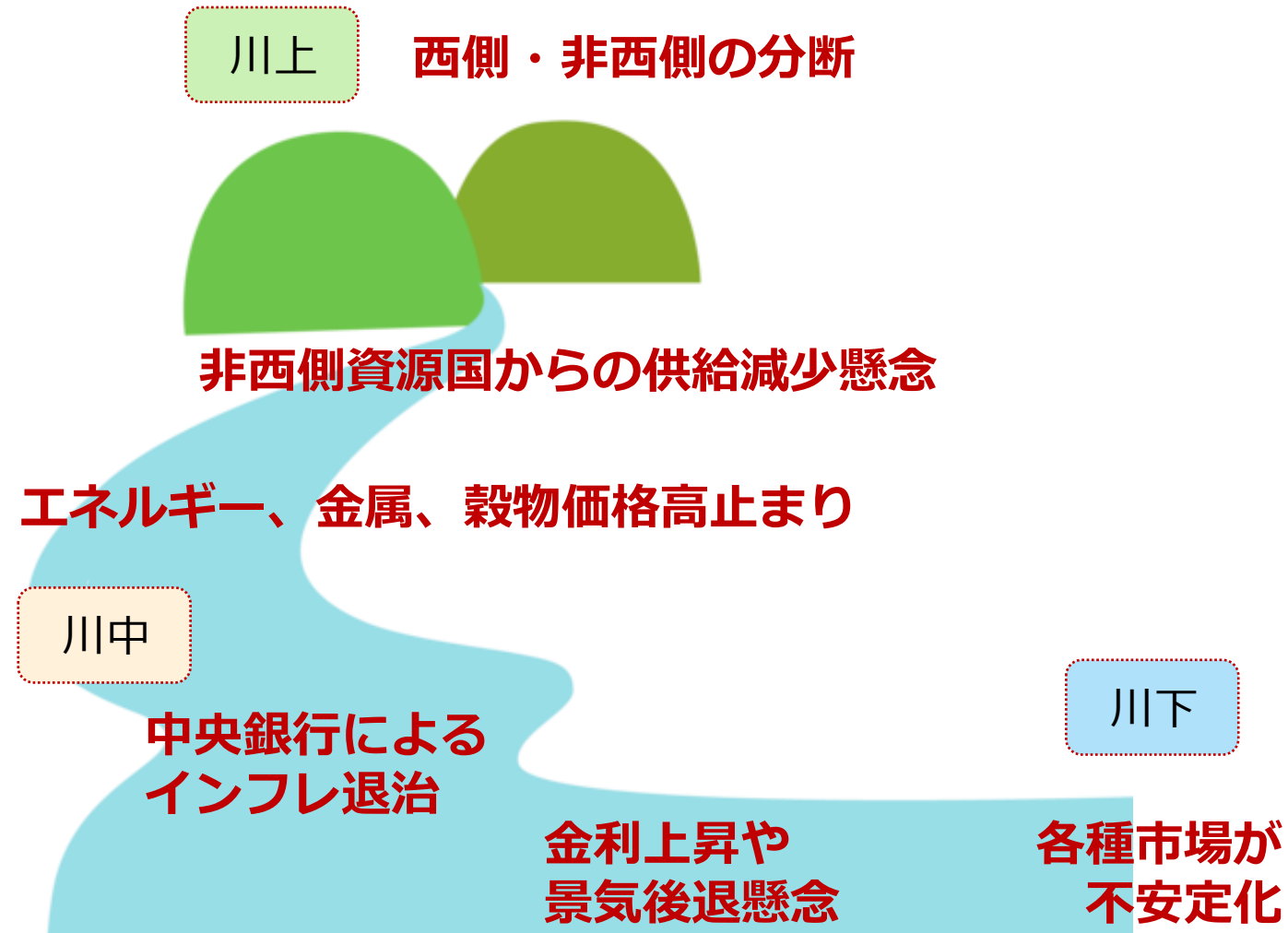
# 今後の見通し（中長期）

## 西側と非西側の分断深化が与える金（ゴールド）・原油相場への影響



# ・ 近年の世の中の全体像

## 近年の世の中の全体像



**ご視聴いただきありがとうございますございました。**

# ● 金（ゴールド）に関わる短中期の三つのテーマの動向

これまで  
FRB：利上げ

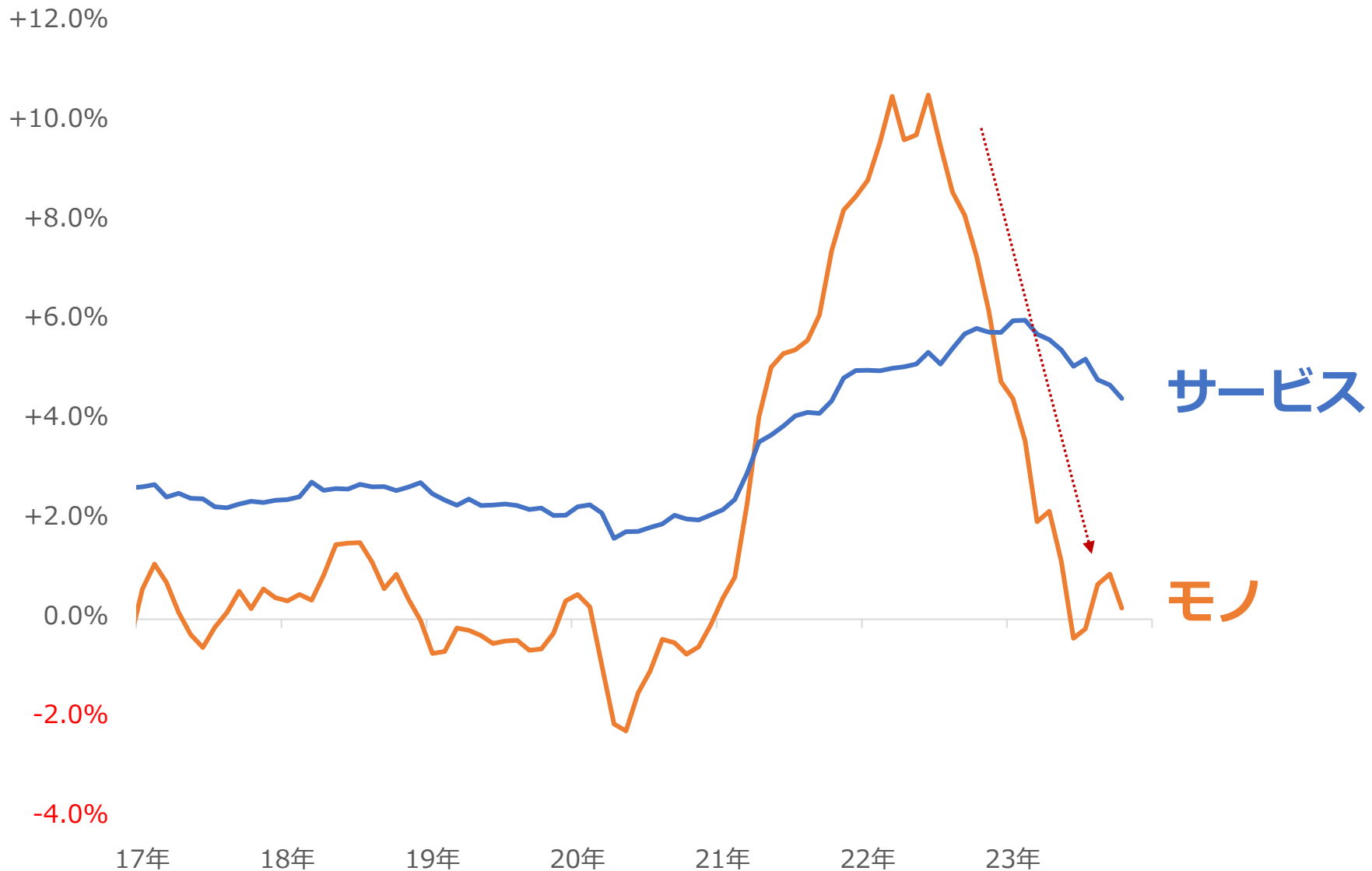
目立ちつつある状況（足元）  
FRB：利上げ温度感低下



出所：筆者作成

短中期の三つのテーマは「代替通貨」が非常に重要（2009年～12年、2020年のように）

# ● 米PCE物価指数におけるモノとサービスの推移（前年同月比）



出所：Bureau of Economic Analysisのデータより筆者作成

「モノ」のインフレは沈静化。「サービス」が沈静化すればインフレ退治完了か。



# ● 金（ゴールド）に関わる七つのテーマ（2）

期間	テーマ	具体（2023年）	一例	
短期	(1) 有事ムード	世界規模の不安拡大時における資金の逃避先	↑	イスラエル・ハマス戦争、ウクライナ戦争続く
	(2) 代替資産	株式（主に米国株）の代わり	↓	株高
	(3) 代替通貨	通貨（主に米ドル）の代わり	↑	米利上げ → ドル高・金安 米利下げ → ドル安・金高
中長期	(4) 中印の宝飾需要	宗教的・民族的背景による買い手	-	-
	(5) 中央銀行	雇用・金利を調整する銀行の銀行の保有	↑	各中銀行の金保有高増加
	(6) 鉱山会社	生産者（高値で増産、安値で減産）	-	-
超長期	(7) 見えないリスク	後戻りしない「世界分断」	↑	・西側 非西側の対立激化 ・異常気象 など
円建て金（ゴールド）は、 <u>(8) 「ドル円の変動」</u> も				円安 → 円建て金高 円高 → 円建て金安

出所：筆者作成

材料複合化時代は、七つのテーマを俯瞰することで相場分析が可能。

## ご注意事項

本資料は、勉強会の為に作成されたものであり、有価証券の取引、その他の取引の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

本資料及び資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、お客様の判断と責任において使用されるものであり、本資料及び資料にある情報の使用による結果について、当社は何らの責任を負うものではありません。

本資料で記載しております価格、数値、金利等は概算値または予測値であり、諸情勢により変化し、実際とは異なる場合がございます。また、本資料は将来の結果をお約束するものではなく、お取引をなさる際に実際に用いられる価格または数値を表すものでもございませんので、予めご了承くださいませようようお願いいたします。

## 店頭CFD取引にかかるリスクと費用等について

### CFD取引にかかるリスク

CFD取引は、お取引の対象となる銘柄の価格変動、金利相当額、配当相当額、価格調整額の支払い、各国の経済、社会情勢、金融政策、金融指標等の変動により損失が生じるおそれがあり、投資元本が保証されたものではありません。また、CFD取引は差し入れた証拠金を上回る金額の取引をおこなうことができるため大きな損失が発生する可能性があり、その損失額は差し入れた証拠金を上回るおそれがあります。

### CFD取引にかかる費用等

CFD取引の取引手数料は無料です。なお、取引にあたっては各銘柄の売付価格と買付価格には差（スプレッド）があります。スプレッドは銘柄ごとに異なります。詳しくは取引説明書等をご確認ください。

### 証拠金について

株価指数CFDは個人口座、法人口座とも取引の額に対して10%以上、商品CFDは個人口座、法人口座とも取引の額に対して5%以上の証拠金が必要となります。

商号等：楽天証券株式会社／金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第195号、商品先物取引業者

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会